「広報あしや」は、毎月１日と15日に新聞折り込みで各ご家庭に配布しています。

Great Little Town ASHIYA

広報あしや

1997年（平成9年）5月15日号
No.724
毎月１日・１５日発行

発行／芦屋市役所（広報課）
☎0797-31-2121
〒659 兵庫県芦屋市精道町7番6号

写真展『なつかしい芦屋の原風景』が開催

４月24日～29日に芦屋文化復興会議主催による写真展『なつかしい芦屋の原風景』が開かれました。大正・昭和初期の貴重な映像資料のコレクションから、当時の景観・建築・生活などを物語る約40点が公開されました。

市政モニター

アスパップレディーからの提案

Ashiya……芦屋
Speech……発言
Proposition……提案
Action……行動
Participation…参加

第五期市政モニター〈アスパップレディー〉は、一年間討議してきた行政改革など四つのテーマについてその提案をまとめ、三月二十七日、北村市長に手渡しました。その概要は次のとおりです。

一・行政改革について

震災復興の財源を確保するために行政改革大綱に基づく実施計画を迅速・確実に実施すること。ただし、復興終了時には削減した助成金や増加した市民負担について速やかに見直すことなど。

●小学校・幼稚園の統廃合、給食センターの設置、核になる学校での集中調理・同一メニュー、弁当日の設定、監視・検査を前提とした給食の民間委託などの検討
●学校の防災・福祉・社会教育施設としての活用など
●ごみ収集の民間委託、分別収集の徹底、リサイクルセンターの設置など
●文化事業の助成金の削減（ただし震災復興達成まで）募集によるボランティアの活用など

二・地域防災について

一人ひとりが日ごろから防災知識を身につけることが大切である。地域防災計画を確実に実行することなど。

●広場・空き地の有効活用、防災拠点の充実と避難所への標識の明示、広域広報用スピーカーの設置など
●弱者用備品・救助に必要な用具・小型消防車の配備、ヘリコプターの活用など
●学校と父母による避難訓練、防災標語の募集、ボランティアの育成、地域の自主防災組織の育成など

三・自然について

イノシシの捕獲を巡る問題は、反対・賛成ではなく、自然環境について再考する機会としてとらえること。

ごみ問題は地球規模の問題であるが、個人の意識の変革、女性の声の反映が必要など。

●看板・標識等の設置、イノシシ一一〇番・捕獲月間の設置、被害状況の掲示、イノシシパトロールの実施など
●ごみ分別収集状況の掲示、無駄な包装の拒否、ごみ・環境問題対策への女性の登用など

四・高齢者福祉について

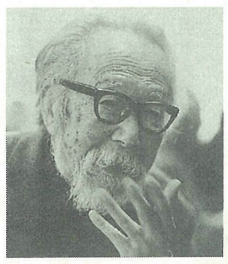
市の高齢化率は十六パーセントを超えた。縦割り行政を見直し、柔軟性をもった長期的展望のある街づくりを目指すことなど。

●グループホームケアを実施した経験から、ケア付き恒久住宅の建設など
●地域に福祉サービスの拠点をつくる、高齢者の把握にローラー作戦を、福祉に携わる人材の育成など
●医療の個人情報の一元化システムなど

問い合わせ　女性施策担当　☎㊳2023

第５期 アスパップレディー

第８回富田砕花賞
―全国から詩集を募集―



市では平成２年に、市制50周年・詩人富田砕花生誕100年を記念して、「富田砕花賞」を創設しました。以来、毎年全国からたくさんの応募があり、この賞にふさわしい作品を決定することができました。

第８回を迎える本年も次のとおり募集をします。

対　象　平成８年７月～９年６月末日までに発行された詩集（ただし、翻訳、アンソロジー、復刻、遺稿集等は除く）
賞・賞金　正賞　ブロンズ像および賞状
副賞　50万円
締め切り　７月31日（木）（当日消印有効）
選考委員　川崎洋氏（詩人・脚本家）／上林猷夫氏（詩人・元日本現代詩人会会長）／小林武雄氏（詩人・兵庫県文化協会理事）／杉山平一氏（詩人・帝塚山学院短大名誉教授）／安水稔和氏（詩人・神戸松蔭女子学院大学教授）※50音順
応募方法　詩集２冊（返却不可）を「富田砕花賞」事務局へ郵送

問い合わせ
〒659　芦屋市業平町８番24号
芦屋市教育委員会　生涯学習課内
「富田砕花賞」事務局　☎38-2091

貴重な「水」に思う
市長からのメッセージ 18

四月中旬、重油流出被害のお見舞いのお礼にと、石川県加賀市から「美しい砂浜に戻りました」とありがとうキャンペーン隊が芦屋市を訪問されました。

震災時、加賀市からは給水車と応急給水業務の支援をいただきました。四月中には、兵庫県、石川県、福井県と、回収作業の終結宣言をされ、ひと安心です。

▽このたび、重油流出事故で被害を受けられた日本海沿岸の、福井県福井市、石川県金沢市、羽咋市、珠洲市、松任市、富山県富山市、新潟県新潟市、柏崎市そして兵庫県豊岡市などに対し、芦屋市から一月中旬に、お見舞いや回収作業に参加しました。これらの地域からは震災時、応急給水業務や水道応急復旧工事の人的支援を受け、何よりも貴重な「水」の業務に当たっていただいたのでした。

▽市民の皆さまも全国各地の給水車や寒いなか水道工事を進めてくださっていたかたがたの姿を記憶されておられることと思いますが、水道部の報告によれば、応急給水には自治体や民間団体など延べ約一万人のかたの支援を受け、さらには多くのボランティア活動によって担われました。水道の復旧にも、全国の自治体から延べ五千七百四十五人の応援をいただきました。特に新潟県支部（新潟市・長岡市・三条市・柏崎市）からは、延べ七百十六人の派遣を受けましたが、新潟地震の経験などに基づいて、混乱・錯そうする復旧作業のなかで、復旧の段取りについて適切なアドバイスをいただきました。

▽新潟市水道局の大沼博幹さんは、震災当日は三陸はるか沖地震災害地、青森県八戸市の水道被害調査から帰って来られたばかりのところ、十八日、七人の救援隊を組織して芦屋市にとんで来てくださいました。大沼さんは、ロサンゼルス大地震の日本水道協会調査団の一員でした。まだパニック状態で給水活動が中心の時、一日も早い「通水」に目が向けられていました。そして震災後六週間で市全域に水を出すことができましたのは、大震災の経験に裏打ちされた新潟県支部の支援に負うところが大でした。深く感謝いたします。

芦屋市長　北村春江

ごあんない REPORT

おしらせ

｜ハートフル福祉公社日給職員
●職種…ホームヘルパー●人数…若干名（昭和22年4月2日以降生まれのかたで、ホームヘルパー養成研修３級課程以上の修了資格所持者）●条件…週４日程度勤務できる人、遅出勤務あり●日給…7900円（27歳～34歳標準、年齢により異なります）●採用予定日…7月1日●受付期間…５月30日（金）まで●申し込み…履歴書持参で芦屋ハートフル福祉公社（浜芦屋町3-26、☎38-3122）へ

｜看護婦募集
●資格…正看・准看●条件…夜勤なし、委細面談●問い合わせ…特別養護老人ホームあしや喜楽苑（☎34-9287）

｜防災講演会
震災時には避難所となる海技大学校の新本館が完成しました。体育館等のある新本館は、４階建てで外観はあこや貝をイメージして設計されています。この新本館の開放をうけ講演会を開催します。●日時…５月18日（日）13時30分～14時30分●会場…海技大学校体育館●講師…神戸大学教授・室崎益輝氏●内容…地域における自主防災活動●その他…12時30分から施設開放●問い合わせ…防災対策課（☎38-2093）

｜商業統計調査にご協力ください
通商産業省・兵庫県・市では、６月１日現在で平成９年商業統計調査を実施します。この調査は３年ごとに行われ、市内の卸売・小売業の商店が対象で、従業員数・年間商品販売額などを調査します。各商店へは５月末から６月はじめに調査員が伺いますので、ご協力をお願いします。
問い合わせは、総務部総務課（☎38-2010）へ

｜第７回ユース・クラブ「外国語の上達法」
●日時…５月21日（水）18時30分～●会場…国際交流協会●内容…スペイン留学経験談と外国語を学ぶコツ●講師…大阪国際大学非常勤講師・沖原雅美氏●問い合わせ…国際交流協会（ラ・モール芦屋２階、☎34-6340）

｜経済課からのお知らせ
＜菊苗の配布と菊づくり相談会＞
●日時…５月29日（木）14時30～●会場…市役所南館玄関口
＜第33回さつき花季展示会＞
●日時…５月29日（木）～６月４日（水）10時～17時（29日10時から開会式）●会場…ＪＲ芦屋駅北側ペデストリアンデッキ
●内容…さつき盆栽展示等
いずれも、問い合わせは経済課（☎38-2033）へ。

｜国民年金保険料の免除申請
病気・失業等で保険料納入が困難な場合、申請により保険料が免除されることがあります。未納のままにしておくと、将来の年金額が減ったり受けられないこともありますので、今年度の免除を希望するかたは５月30日（金）までに申請してください。
問い合わせは、保険年金課年金係（☎38-2036）へ。

｜市民会館指定団体の申請
市は公共性の高い活動を行う団体には、市民センターの使用料の一部を免除しています。６月30日で期限が終了しますので継続・新規の指定を希望する団体は、６月10日（火）までに、生涯学習課（市民センター本館１階、☎38-2091）へ。

｜「ペットボトル リサイクルグッズ展」
４月１日から容器包装リサイクル法が施行され、消費者にも分別排出が義務づけられました。回収されたペットボトルがさまざまな商品に生まれ変わる過程をパネルや実物で展示します。
●日時・会場…５月９日（金）～23日（金）公民館ギャラリー、５月26日（月）～６月27日（金）消費生活センター●問い合わせ…消費生活センター（☎38-2034）

｜いきいき仕事塾受講生募集
生きがいづくりや仕事につながる知識・技能を習得できるよう「いきいき仕事塾」を開催します。
●講座…「ふれあい交流」コース他（定員は各50人、先着順）●期間…６月～９月の12週（毎週１回２時間程度）●会場…市民センター他（市外会場あり）●対象…おおむね55歳以上のかた●その他…１日あたり2000円の研修手当を支給●問い合わせ…県生活復興推進課（☎078-362-4217）

｜芸術・文化活動への補助
被災地内に拠点をおいて芸術・文化活動を行っている団体・個人に対し、県内での活動経費の一部を補助します。
問い合わせは、県芸術文化課芸術文化事業担当（☎078-362-3171）へ。

■訂正します
広報あしや５月１日号（No.723号）の７面に掲載したあしや温泉の記事で休業日に誤りがありました。正しくは、毎週火曜日と毎月第１・３水曜日です。訂正し、お詫びいたします。

納期　６月２日まで

自動車税（納入は銀行・郵便局等の金融機関または財務事務所で）
／西宮財務事務所（☎0798-34-5628）

毎月20日は「阪神地域ノーマイカーデー」

みどり豊かなまちづくりへ

～やすらぎと再生へ　みどりのネットワーク～

阪神・淡路大震災では、多くの建物が被害を受けた中で、樹木が火災の延焼や家屋の倒壊を防いでくれました。また、これらの木々が人々に安らぎと再生への勇気を与えてくれるので、改めて樹木の大切さを感じます。

問い合わせ　公園緑地課　☎38-2065

コブシを植樹する２年生（宮川小学校）

―被災地で緑の復興を―ひょうごグリーンネットワーク

「ひょうごグリーンネットワーク」は、安藤忠雄氏（建築家）や広中平祐氏（山口大学学長）たちが代表委員を務める「阪神・淡路震災復興支援十年委員会」が進めている活動の一つで、被災地に苗木を配り、緑豊かな街づくりを応援しています。

現在進められている復興事業は、環境づくりや緑化にまで手が回らないのが現状で、このままでは緑の少ない街ができあがる恐れもあります。そこで、ひょうごグリーンネットワークは復興に際し被災地の緑化をバックアップし、緑豊かな共有財産としての街づくりを目指し、芦屋市にも多くの支援をいただいています。

復興戸建住宅への苗木配布事業として、震災で被害を受けられた個人住宅に一戸当たり二本ずつの苗木が贈られています。平成八年度は三百六十二戸に七百二十四本が植えられました。

また、ひょうごグリーンネットワークを通じ多くの地方公共団体から苗木の提供があり、岡山県高梁市から桜（芦屋中央公園に植樹）、神奈川県鎌倉市からハクモクレン（市営住宅浜団地、西蔵団地）、神奈川県藤枝市から黒松（芦屋公園）、秋田県横手市から桜（芦屋浜高層団地）、東京都武蔵野市からはコブシやハナミズキ（市民センター）が贈られました。

グリーンボランティアによる植樹事業では、シンボルツリーのハナミズキが百二十本（芦屋中央線、中央緑道、打出浜小学校北緑地、市庁舎他）、コブシ百五本（奥山精道線、宮川小学校、大東西住宅、大東団地）とハクモクレン五十本（市庁舎、ハイランド緑地他）が植樹されました。

被災小学校へのシンボルツリー植樹事業では、市内の九小学校へ各五本のシンボルツリーが植樹されました。また、四月十日はひょうごグリーンネットワークの呼びかけ人代表の安藤忠雄氏が来芦され、浜風小学校で北村市長、河上議長、三浦教育長、永井校長と二年生の児童たちの手で贈呈式を兼ねた植樹式を行い、三十本のコブシが植えられました。

ひょうごグリーンネットワーク１周年の集い
被災地に緑を取り戻そうと発足した「ひょうごグリーンネットワーク」運動が、設立１周年の記念集会を開催します。参加は無料です。
日　時　５月19日（月）午後２時～４時30分
会　場　神戸新聞社松方ホール
内　容　記念講演　「自然との共生」／C.W.ニコル氏（作家）
対　談　C.W.ニコル氏＆安藤忠雄氏
申し込み　電話あるいはＦＡＸで
問い合わせ　ひょうごグリーンネットワーク
☎078-321-2131　FAX 078-393-2959

桜の新名所造りで２つの賞を受賞
―芦屋浜地区―
―宮川周辺―

芦屋浜高層住区四者管理協議会　さくら功労者として表彰
四月四日、（財）日本さくらの会が主催する第三十二回さくら祭り中央大会（東京）で芦屋浜高層住区四者管理協議会（住宅・都市整備公団、兵庫県、兵庫県住宅供給公社および民間企業の住宅共有部分の管理者協議会）がさくら功労者として表彰されました。

同協議会では、震災復旧工事で代替え駐車場や資材置き場として使用していた団地内の緑地帯を「みんなに親しんでもらえる場所にしたい」と百五十本の桜を植樹することにしました。

これに市が進めている宮川護岸桜並木と隣接の中央公園の桜を合わせると、四百十本の桜の新名所が誕生することになります。

宮川護岸の桜並木　緑のデザイン賞で　緑化大賞を受賞
第七回緑のデザイン賞で芦屋市が応募した宮川護岸の桜並木が緑化大賞を受賞しました。四月十八日に東京で表彰式が行われ、北村春江市長に賞状と目録が贈られました。

緑のデザイン賞は（財）都市緑化基金他が地域社会の賞的向上を目指し、全国から緑化プランを募集し、優秀なプランに対しその実現のための助成を行うものです。

阪神・淡路大震災により被災した宮川の災害復旧工事の完成に合わせ、護岸に震災復旧・復興のシンボルとしての桜並木を整備するプランが優秀と認められたものです。

現在、市では宮川周辺を親水空間・市民のふれあいの場として整備を進めています。

さらに、防災上の観点からも宮川沿岸を河川緑地帯として、市民の皆さんと一体となって緑化事業を進めていきます。

二、三年後の収穫時には、保育所や老人会などでりんご狩りを楽しんでもらい、子供たちやお年寄りにプレゼントするなど、みんなの財産として活用したいと考えています。

「復興」と「希望」のシンボル　りんごの木を植樹
ロータリークラブなどで組織する「この町・花の街・作戦」実行委員会の呼びかけで、呉川町町内会をはじめとした皆さんが、三月二十九日・三十日に呉川町の防潮堤線に、りんごの木五十三本を植樹しました。

三十日の苗木の贈呈式には北村市長も出席し、記念植樹を行いました。

苗木は芦屋市でも育つように品種改良されたりんごで、樹齢六年、幹周り二〇～二十五センチメートル、高さ二メートルで、全国から提供されたものです。

「希望りんご」と名付けられた木は一本ごとに世話人を決めて、水やりや手入れを担当していただきます。

１本ずつに育てる人の名前が記されたりんごの木と、りんご並木。

４月29日みどりの日を記念しての植樹式

震災復旧・復興のシンボルとして　宮川護岸の桜並木が完成
芦屋浜の宮川護岸に桜並木が完成し、地域のかたがたをお招きして、みどりの日（四月二十九日）に完成の植樹式を行いました。

震災前、宮川の西側護岸に芦屋市緑化推進事業の一環として、芦屋ファンランの主催新聞社の寄付、三団体協議会の植樹や市内の高等学校の文化祭行事で桜を植えていただきました。ところが、阪神・淡路大震災で宮川護岸が大きな被害を受け、桜も大部分が立ち枯れ、残ったものも災害復旧工事のため移植を余儀なくされました。

緑化大賞受賞でお知らせしましたように、このたび市と地元の皆さんが力を合わせて復興のシンボルとして整備した付近一帯は、桜の新名所となりました。

災害復旧工事で完成した、環境に優しいグリーンの護岸にピンクの桜が映える来年春からのお花見を楽しみにしてください。

新しい桜の新名所と期待される宮川護岸付近

◇「あしや花と緑の会」が発足◇
緑化協会は（財）都市整備公社に統合されましたが、緑化協会の会員制度は４月１日から「あしや花と緑の会」に引き継ぎ、自然と調和した緑豊かな美しい芦屋の街を再建するため、緑化の推進と緑の保全に協力していただけることになりました。

初代会長には城純一氏（芦屋観光協会会長）が就かれ、事務局は都市整備公社みどりの課（☎38-2103）が担当します。

緑化協会が今まで行っていました花苗配布、花木購入割引やフラワーポット・ボックス貸出制度は継続しますのでご利用ください。

◆緑の垣根を作りませんか◆
～生け垣設置助成金制度の活用を～
市では、「魅力ある芦屋のまちづくり」を復興の柱の一つとして、花と緑につつまれたまちづくりを推進しています。

生け垣は景観上の効果に加えて、災害を防ぎ、騒音をやわらげ、気温を調整し、空気をきれいにする等、環境面でも大きな役割を果たしてくれます。

家屋の復旧等で生け垣を作ったり、既存のブロック塀等を取り壊して生け垣を作るときに、この制度（下表参照）を利用して、みどりいっぱいの芦屋を復興してください。

問い合わせ　都市整備公社みどりの課　☎38-2103

生け垣設置助成金制度の概要

種　別	算定基礎額	交付額	交付限度額
生け垣を作るとき（樹木の植栽）	植栽延長１ｍにつき50,000円以内	算定基礎から得た額の３分の２以内	400,000円
生け垣を作るとき（つる性植物の植栽）	植栽延長１ｍにつき10,000円以内	算定基礎から得た額の３分の２以内	150,000円
ブロック塀などの撤去工事（生け垣設置工事に伴うもの）	とりこわす塀の延長１ｍにつき8,000円以内（ただし、植栽延長を超えないもの）	算定基礎から得た額の３分の２以内	120,000円

＊対象は個人の居住用住宅敷地に限ります。助成額の算定の際、1000円未満は切り捨てになります。

広報チャンネル番組ガイド 9CH

放送開始	A	B	C
	５／１５（10:00～）～６／１（～10:00）		
6:00	00分　あしやＮＯＷ（＊） 15分　フレッシュリポート（＊）「痴呆性老人を支える」 30分　詩をよむ 40分　まちかど定点観測（芦屋中央線） 50分　文字放送（ゴミ、救急当番医）	00分　市民リポーター企画（＊）「芦屋文学散歩―村上春樹」 20分　健康ホップ・ステップ（＊） 30分　広報カメラ撮りっきり（＊）「親子自然教室」 50分　ナレーション付き文字放送（お知らせ、催し物案内）	00分　ニッポンみたまま 30分　「地球を守るアースレンジャー」他
9:00			
12:00			
15:00			
18:00			
21:00			

■日・月・木…ＡＢＣ、火・金…ＣＡＢ、水・土…ＢＡＣ、の順に、午前６時から３時間サイクルで放映しています。
番組内容などは変更になる場合もありますのでご了承ください。（＊）印の番組はビデオの貸し出しが可能です。

広報チャンネルに関する問い合わせ　広報課☎38-2006／CATV加入に関する問い合わせ　CCA☎0120-181-344

常設展「芦屋の美術を探る―熱き抽象 1957～1964―」
小出楢重をめぐる作家たち
期　間　５月24日（土）～６月22日（日）
時　間　午前10時～午後５時（入館は４時30分まで）。月曜日休館
観覧料　一般300円　大学・高校生200円　小中学生無料
市内在住の65歳以上のかたおよび心身障害者は半額、団体（20人以上）は２割引

通年展示　「芦屋の歴史と文化財」

展示替えのため、５月19日（月）～23日（金）は休館します

問い合わせ　美術博物館　☎38-5432

ハーブの寄せ植え講習会
日　時　５月29日（木）
午前10時～12時
午後１時30分～３時30分
会　場　緑の相談所
講　師　司馬蓉子氏（グリーンアンドフラワーＡＯＩ）
費　用　3000円
定　員　先着10人
締め切り　５月22日（木）

問い合わせ　都市整備公社みどりの課　☎38-2103

税Ｑ＆Ａ
Ｑ　土地の価格が下落しているのに、固定資産税が下がらないのはなぜでしょうか？
Ａ　固定資産税は、まず、固定資産（土地・家屋・償却資産）を評価し、その価格を決定します（評価額という）。その評価額が、原則として、課税標準額となりますが、一般の住宅用地は評価額の三分の一、小規模住宅用地は評価額の六分の一の額が課税標準額となります。その課税標準額に税率（一・四％）を乗じて税額を算出します。

平成九年度は、三年に一度の評価替えの年で、すべての土地の評価額を見直しました。

これまでは、評価替えにより評価額が著しく上昇した場合でも、税負担の上昇をなだらかにする調整措置を行ってきましたので、評価額と実際の税額を求める課税標準額との間には格差が生じ、今回の評価替えにより評価額が下がっても、大部分の土地については、まだ新たな評価額の方が平成八年度の課税標準額を大きく上回ることになります。そのため、従来の調整措置の方法によりますと、評価額は下がっても税負担はなだらかに上昇することになります。

そこで、平成九年度の税制改正では、「負担水準」という新しい調整措置を導入し、大部分の土地の平成九年度の税負担は、前年度の税額に据え置かれるようになりました。（広報あしや五月一日号の税制改正の記事をご覧ください。）

なお、震災後行っていました震災減免は平成八年度までとなっていますので、その減免相当額については上昇します。

問い合わせ　課税課固定資産税係　☎38-2017

限りある資源を大切に！「広報あしや」はリサイクルによる、古紙からの再生パルプを含んでいます。

E・D・U・C・A・T・I・O・N 教育のページ

このページの問い合わせは
学校教育課（☎38-2087）へ

夢と希望を抱いて 新学年が始まる

震災から３回目の春を迎え、市内の学校園では豊かな教育の創造を目指し、園児・児童・生徒と教職員が心を一つにして歩み始めました。また、宮川小学校・精道中学校では創立記念式典が行われ、明るい出発となりました。

絵本を手にして喜ぶ園児たち（精道幼稚園）

◇絵本をもらってうれしいな

幼稚園では、毎月絵本を購入して園児たちが絵本に親しみ、身の回りのことなどに対して興味を持つきっかけづくりをしています。その中に、一年間継続して読む本を、物語と図鑑シリーズから保護者と園児が一緒に考えて選ぶものがあります。

精道幼稚園では、四月二十一日に年長の園児たちに絵本が配られました。物語シリーズで『ぐりとぐら』図鑑シリーズでは『いちご』が配られると、お互いに絵本を見合ったり、文字をたどって読んだり、隣の友達に説明したりする姿が見られました。先生が楽しそうに読み聞かせると、園児たちは、一層自分の本に関心を持ち、何度も見たり読んだりしていました。

◇六年生になって

岩園小学校の始業式では、尾崎友博君が六年生になった期待と抱負を次のように発表しました。

「新学期がはじまり、六年生になりました。六年生になったのはとてもうれしい。同時に最高学年としての責任を感じます。児童会や登校班等責任をもって、まとめていかなくてはいけません。一生懸命頑張っても、失敗するかもしれません。でも、『失敗は成功のもと』といわれているので、頑張りたいと思います。岩園小学校を楽しい学校にするためには、六年生の力だけではなく、全校生の協力が必要です。皆さん協力してください」

宮川小学校創立70周年・新校舎完成を祝う会

四月十八日、北村春江市長をはじめ、多くの来賓のかたをお迎えして、宮川小学校創立七十周年と新校舎完成を祝う会を行いました。

澄みきった青空の下、かわいい花が校門や校庭を美しく彩り、春を讃えていました。

「児童たちは、震災をはさんだ長い工事期間、プレハブ教室・狭い運動場・度重なる移動など、我慢していた気持ちから解放されて、ようやく安心感を持ってきました」（先生の談話）

また、同窓生も「すばらしい校舎が完成したこと、育友会の協力によって、今日の会が開かれたことなど、卒業生として、大変うれしい」と在校生と一緒に喜びを分かち合いました。

宮川小学校体育館で行われた式典

精道中学校 創立50周年記念式典

四月十九日、精道中学校でも多くの来賓を迎えて式典が行われました。

精道中学校の歴史を振り返り、さまざまな時代に思いを馳せて語る来賓や同窓生の話に生徒たちも熱心に耳を傾けていました。同窓生の石本健二郎氏（昭和二十七年、夏の甲子園大会で全国制覇した時の県立芦屋高校野球部主将）は、記念講演の中で、精道中学校の歴史を詳しく説明され、生徒たちには、「夢をもって、自分の意志で汗をかこう」と話されました。生徒たちは、改めて精道中の歴史の重みを感じ、多くの先輩がたの足跡を聞くにつけ、自分たちも後に続こうと気持を奮い起こしたようでした。

式典の後、体育館のまわりの花壇までが、春の日差しをいっぱいに受け、生き生きと輝いて見えました。

『鏡の中の少女』を読んで

潮見中学校２年　高橋　真理

芦屋市学校図書館協議会では、市内の小中学校の児童生徒の読書感想文集を作成して、子どもたちが本に親しむきっかけづくりをしています。

この本を読み始めた時、拒食症のフランチェスカは太っていて醜いから少しでも細く見せようと、食べる量をほんの少し減らすだけだろうと思っていた。ところが、食べたものを吐き出すという異常なダイエットの仕方だった。そんなところから「この子は何か思い詰めることがあるのではないか」と思うようになった。案の定この子にはずっと思い詰めていることがあった。「私が思っていることを言ったとしてもどうせだれも聞いてくれないだろう」、「あの子たちは私の悪口を言っている」、「母は私がかわいくないんだ」と。私は、拒食症ではないけれど、思っていることは同じだと思った。例えば、友達や親に少しでも話を聞いてもらえなかったりすると、「私のこと嫌いなんだ」と本気で悩むこともある。また「聞いてと言っても無駄だろうから、次からはあの子と話すのはやめよう」と一人でいじけることもある。だけど私はその場で感情を表に出す性格なので何日も何日も後に引きずるということはまずない。

フランチェスカはとうとう生命にかかわるぐらいにやせてしまった。すると、親も「食べなさい」と叱るようになる。しかし、いつも親に怒られている姉のスザンナをうらやましく思っていたフランチェスカは、「拒食症が治ってしまったら、また相手にされなくなる」と思って、病気を治したくないのだろう。

私もそれと似たような気持ちになったことがある。小さい頃、母が家事などで忙しくて私の相手をしてくれない時のことだった。私が「本を読んで」、「どこかに行こう」とせがんでも、母は「誰かと遊んでおいで」と言った。私は仕方なしに外へ遊びに行った。そして、家の前でころんでしまった。「もし今泣いたらお母さんは来てくれるだろう」と思ったから「ワーワー」と泣いてやった。それなのに母は来てくれない。仕方がないから家に帰った。すると母は心配そうに「どうしたの？」と聞いてきたから、もっと「ワーワー」泣いてやった。幼心に今泣きやんだら、「もう大丈夫ね」なんて言われるなと思ったから。さっき私は「感情を表に出す性格なので何日も何日も後に引きずらない」といったけれど、それは、つい最近のことで、いろいろな事に悩まされた時期があった。それは中学校の２年生になり、クラスの友達がかわった頃だった。私自身「嫌われたくない」と強く思いすぎて言いたいことが言えなかった。それは私にとってストレスだった。たまに「そんな自分ではだめだ」と思い直して話しかけても、なんとなく「それがどうしたのよ」というような目で見られている気がするので「私って嫌われているな」と思いこんでしまい、余計に言えなくなってしまう。そのうえ、クラスメートが内緒話をしている時、目があったりすると「あの子たち、私の悪口を言っているんだ」と思うし、笑い話をしている時でも、思い切って「私何か変なことをした？」と聞いてみると、意外にも私には全く関係のない事だった。それどころか、「なんでそんなことを聞くの？」と聞き返された。その時思ったことは、「そこまで他人の事を見ていないものだ」っていうこと。そんな風に見方を変えたら思い悩むことも少なくなった。

フランチェスカの場合は、自分で解決することができなかったから、カウンセラーのような医者の助けを借りた。助けといってもただ自分の悩みを聞いてもらい、少しアドバイスをしてもらうだけなんだけれど、フランチェスカにとってはそれが一番大事なことだった。

たまたまこの本に出てくる女の子が私と同じくらいの年齢で、似たような悩みを持っていたため、医者の話は私の気持ちを楽にさせてくれた。さらにいうなら、私と同じ悩みを持っている人がいると知って、とても安心したということだ。

（平成８年度芦屋市読書感想文集より）

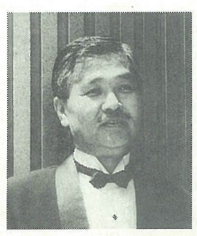
～芦屋　あすに向かって～　ルナ・ホール　リニューアルオープンコンサート

vol. 3　田原祥一郎と芦響の仲間たち

日　時　６月15日（日）午後２時開演
会　場　ルナ・ホール
内　容　・日本の歌／「浜辺の歌」「初恋」「この道」
・イタリアの歌／「愛の歌」「帰れソレントへ」
・チャイコフスキー／「白鳥の湖」より抜粋他
出　演　田原祥一郎（テノール）、芦屋交響楽団

入場希望のかたには、21日（水）午前10時から文化振興財団事務所（市民センター内、火曜日以外の午前10時から午後５時まで）で、整理券（600人、無料）をお渡しします。

vol. 5　9th Vanguard Jazz Concert



日　時　７月12日（土）午後６時開演
会　場　ルナ・ホール
出　演　大塚善章（右写真）、十川尚子、古谷充、北野タダオとアロー・ジャズ・オーケストラ他、司会　川村龍一
料　金　前売3500円、当日4000円＜自由席＞
＊前売券売り切れの場合、当日券は販売しません

チケットは大丸芦屋店商品券売場、モンテメール大蓄、チケットぴあ、チケット・セゾン、関西ＰＧ協会、市役所売店等で販売しています。

問い合わせ　文化振興財団事業部　☎31-4995